

〔時慶卿記〕寛永六年十一月八日辰刻俄ニ堂上各束帶ニテ可伺候旨被觸事ノ子細ハ不知急參内予又素絹ニテ内ノ番所迄伺候シテ退外へ出未刻許ニ節會アリ次第別ニ記之御讓位○後水尾俄也誰モ無知人中御門大納言計ニテ各驚計也諸卿參集ハ巳刻陣未刻節會果テ日入各拜初夜ニ院參亥刻許拜ノ衆多ハ無之ト猶可尋

〔大猷院殿御實記十四〕寛永六年十一月八日京にて主上○後水尾にはかに御位を女一宮○明にゆづ

らせたまふ近侍の公卿といへども今日まで此事を告るものなし中宮○後水尾后はわきて去ろしめさゝりしに夜に入て主上わたらせ給ひかくと告させたまへば驚き思召事斜ならず急脚を關東にたてられ天野豊前守長信をもにはかにつかはされ大御所○徳川秀忠へも御手書もて

仰進らせられこよひより中宮御所はふかくとざし婦女出入を禁じ嚴につしませ給ふとぞ關東にてもやがて酒井雅樂頭忠世土井大炊頭利勝及伊丹播磨守康勝を上京せしめ丹後郡代五味金右衛門豊直とはかり御讓位の事を沙汰せしめ豊直はこれまで板倉周防守重宗があづかりし仙洞御料洛中并西國邊にて公卿より收公ありし采邑宅地の事を沙汰せしめらるよて別に御判物并月俸二十口たまふ九日中宮を推て皇太后宮とし東福門院と稱し奉る十三日天野豊前守長信參著し御讓位の事を土井大炊頭利勝まで聞え上しに兩御所○秀忠家光聞召御けしきよろしからず長信は十二月五日迄とゞめられ御返詞の御沙汰なし十二月廿三日中宮附天野豊前守正信はじめ御前にめし出され中宮への御返書をさづけ給ふ

〔新蘆面命下〕後水尾院様ふと御位を御すべりなされ候故板倉周防守殿近衛様へ參られ不意なる事御世繼をも不被仰出江戸へも不被仰談して御心まゝなる事ども何事にやと尋被申候應山公被仰候は吾等も曾不知何事にて有けん防州再三尋被申候へば御存無之候中院は存候半哉と被仰候故中院通村朝臣へ御尋候處通村仰られ候は何が面白くて御位に可被成御座候哉